

三嶺の森をまもるみんなの会

# 「ミニ講演会 2018」のお知らせ

「みんなの会」は、総会后、情報の共有を進めるためにオープンな「ミニ講演会」を開催しております。今回は、三嶺山域に生息している国内で最も絶滅が危惧される地域個体群であるツキノワグマについて報告していただくとともに、ツキノワグマの生態や保護問題について共通認識を深めたいと思います。

どなたでもお気軽にお越し下さい。(無料)

日時：4月14日(土)  
14時15分～16時頃

会場：香美市立中央公民館2階会議室  
(香美市土佐山田町宝町2-1-27、香美市役所西北側・国道沿い)

テーマ：

四国(三嶺・剣山地)のツキノワグマ

山田孝樹(四国自然史科学研究センター)



主催：三嶺の森をまもるみんなの会

問い合わせ先：依光良三 090-4338-5209

坂本 彰 090-3460-8004

九州大自然科学研究室と特定非営利活動法人(NPO法人)「四国自然史科学研究センター」(須崎市)のグループは10日、絶滅が心配される四国のツキノワグマが独自の遺伝的特徴を持つことを確認したと発表した。同センターの金沢文吾研究員は「保全する意義があらためて裏付けられた」と話している。

### DNA配列に違い 須崎市のNPOら確認

グループは日本各地やアジアのツキノワグマ約三百五十頭について、細い小器官ミトコンドリアのDNA配列の一部を比較。進化の過程を「系統樹」を描いた。この結果、四国のツキノワグマの一部が、紀伊半島のクマに近いものの、明らかにほかの地域のクマと異なるDNA配列を持つことが分かった。

ツキノワグマの系統樹  
高知県のNPO法人と九州大の研究に基づいて作成

日本のツキノワグマ  
紀伊半島  
ツキノワグマ  
アジアのツキノワグマ

解析を担当した九州大の大学院生、安河内彦輝さんは「本州と離れた四国ではツキノワグマも独自の進化をたどってきた」と話している。

四国のツキノワグマは徳島・高知両県境にまたがる剣山系に十数頭のみが生息するといわれ、二〇〇五年から世界自然保護基金(WWF)ジャパンが研究を助成し生息地を保護している。

香美市の別府山で撮影されたツキノワグマの母親と2頭の子グマ(19年9月23日、四国自然史科学研究センター提供)

## ツキノワグマ 四国で独自進化

保全の意義裏付け